古文 重要単語 まる見え1枚シート

古文単語は「意味グループ」でまとめて覚えると一気に定着します。1語に訳を2〜3個、現代語との「ズレ」に注意して読み解きましょう。

★★★ 入試超頻出　★★ よく出る　★ 余裕があれば　💡 覚え方　▶ 例文

① プラス感情 ▶ ② マイナス感情 ▶ ③ 程度・評価 ▶ ④ 敬語 ▶ ⑤ 動作・状態の動詞 ▶ ⑥ 時・副詞ほか

まず感情語＝「心の動き」を表す形容詞から固めると、主人公の気持ちが一気に見えます。多義語には**注意マーク⚠**。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 プラス感情・好ましい気持ち

古語	主要な訳	頻出
あはれ（なり）	しみじみと心打たれる／趣がある／かわいそうだ	★★★
をかし	趣がある／興味をひかれる／こっけいだ・おもしろい	★★★
めでたし	すばらしい／立派だ／みごとだ	★★★
うつくし	かわいい・いとしい（※「美しい」ではない）	★★★
らうたし	かわいらしい・いとしい（守ってやりたい感じ）	★★
なつかし	心がひかれる・慕わしい（※「懐かしい」ではない）	★★
ゆかし	見たい・知りたい・聞きたい／心がひかれる	★★★
まめなり	まじめだ・誠実だ／実用的だ	★★
あらまほし	理想的だ・望ましい（「あり＋まほし」＝こうありたい）	★★

💡 **「うつくし」「らうたし」「なつかし」は現代語とズレる三大語！**「美しい」ではなく**かわいい**、「懐かしい」ではなく**心がひかれる**。ここを訳でひっかけるのが入試の定番。

▶ **例文**：うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔。 → かわいらしいもの、瓜に描いた幼児の顔。

▶ **例文**：「ゆかしがる」とは見たく・知りたく思うこと → 心がひかれて見たい・知りたいと思う。

2 マイナス感情・不快な気持ち

古語	主要な訳	頻出
わびし	つらい・やりきれない／さびしい／興ざめだ	★★★
さうざうし	もの足りない・物さびしい（あるべきものが無い）	★★
つれづれ（なり）	退屈だ・手持ちぶさただ／しんみりともの寂しい	★★★
心もとなし	待ち遠しい／じれったい・不安だ／ぼんやりしている	★★★
おぼつかなし	気がかりだ・心配だ／はっきりしない・ぼんやり	★★
うし（憂し）	つらい・いやだ・憂鬱だ	★★★
わろし	よくない・好ましくない（悪い〜普通の間）	★★
あさまし	驚きあきれる（良くも悪くも）／興ざめだ・情けない	★★★
あやし	⚠不思議だ・妙だ／（賤し）身分が低い・粗末だ	★★★
むつかし	不快だ・うっとうしい／面倒だ（※「難しい」ではない）	★★
くちをし	残念だ・もの足りない・がっかりだ	★★★
すさまじ	興ざめだ・殺風景だ・場違いだ	★★

💡 **「わろし」は段階で覚える。**よし（良い）＞よろし（まあ良い）＞**わろし（よくない）**＞あし（悪い）。4段階のうち上から3番目。

💡 **「あやし」は漢字で見分ける。**「怪し・奇し」＝不思議、「賤し」＝身分が低い・みすぼらしい。文脈で判断！

▶ **例文**：つれづれなるままに、日暮らし硯にむかひて。 → することもなく退屈なのにまかせて、一日中硯に向かって。

3 程度・評価を表す語

古語	主要な訳	頻出
いみじ	⚠程度がはなはだしい→（良）すばらしい／（悪）ひどい	★★★
ゆゆし	不吉だ・恐れ多い／（程度が）はなはだしい・すばらしい	★★
やさし	⚠きまり悪い・恥ずかしい／優美だ・上品だ／けなげだ	★★
はづかし	⚠（相手が）立派でこちらが気おくれする／きまり悪い	★★★
ありがたし	めったにない・珍しい／（めったにないほど）すばらしい・もったいない（※「感謝」ではない）	★★★
めづらし	すばらしい・賞賛したい／めったにない・新鮮だ	★★
おどろおどろし	大げさだ・ぎょうぎょうしい／気味が悪い・恐ろしい	★
いたづらなり	むだだ・むなしい／何もすることがない・ひまだ	★★

💡 **「いみじ」は良い・悪い両方！**本来は「程度がはなはだしい」だけ。あとは文脈で「すばらしい」か「ひどい」かを判断。**いみじう＝とても**（副詞的）も頻出。

💡 **「はづかし」は“こちらが恥ずかしくなるほど相手が立派”。**「はづかしき人」＝こちらが気おくれするほど立派な人。「恥ずかしい人」ではない！

▶ **例文**：ありがたきもの、舅にほめらるる婿。 → めったにないもの、舅にほめられる婿。

4 敬語（尊敬・謙譲・丁寧）

尊敬語＝目上の動作を高める

古語	訳
おはす／おはします	いらっしゃる（「あり・行く・来」の尊敬）
のたまふ／のたまはす	おっしゃる（「言ふ」の尊敬）
たまふ（四段）	お与えになる／〜なさる（尊敬の補助動詞）
めす（召す）	お呼びになる・お取り寄せになる・召し上がる
ごらんず	ご覧になる（「見る」の尊敬）
きこしめす	お聞きになる・召し上がる・お治めになる

謙譲・丁寧＝自分を低める／です・ます

古語	訳
さぶらふ／候ふ・侍り	お仕えする／（丁寧）あります・ございます
まうす（申す）	申し上げる（「言ふ」の謙譲）
たまふ（下二段）	〜ております（謙譲の補助動詞・会話文中心）
たてまつる	差し上げる／（補助）お〜申し上げる
まゐる（参る）	参上する・差し上げる・召し上がる
うけたまはる	お聞きする・お受けする（「聞く・受く」の謙譲）

💡 **「たまふ」は活用で意味が逆転！**四段活用＝**尊敬**（〜なさる）／下二段活用＝**謙譲**（〜ております）。下二段は「思ふ・見る・聞く・知る」など知覚・思考の動詞に付き、「たまへ」と命令・已然になるので見分けやすい。

5 動作・状態を表す重要動詞

古語	主要な訳	頻出
おどろく	はっと気づく・目を覚ます（※「驚く」だけではない）	★★★
おこたる	病気がよくなる・治る／なまける	★★
ねんず（念ず）	祈る／じっと我慢する・こらえる	★★★
ながむ	もの思いにふける・物思いをする／（眺む）遠くを見る	★★
わづらふ	病気になる／思い悩む	★★
ののしる	大声で騒ぐ・評判になる（※「罵る」だけではない）	★★
ありく	歩き回る・あちこち動き回る	★

▶ **例文**：夢に見えつるにおどろきて → 夢に見えたことではっと目を覚まして。

▶ **例文**：心の中に念じて → 心の中でじっとこらえて。

6 時・程度・呼応の副詞ほか

古語	主要な訳	頻出
▼ 時を表す		
あした（朝）	朝・翌朝（※「明日」ではない）	★★★
つとめて	早朝／（何かの）翌朝	★★★
ゆふべ／よひ	夕方／宵・夜のはじめ	★★
ありあけ	明け方（夜明けにまだ月が残る頃）	★
▼ 副詞・呼応の語		
やがて	そのまま／すぐに（※「やがて＝のちに」ではない）	★★★
さすがに	そうはいってもやはり・とはいえやはり	★★
なかなか	かえって・むしろ／中途半端だ	★★★
げに	本当に・なるほど・いかにも	★★★
いと／いとど	たいそう・非常に／（いとど）いっそう・ますます	★★★
え〜（打消）	（打消を伴い）〜できない	★★★
な〜そ	（禁止）〜してくれるな・〜するな	★★
つゆ／さらに〜（打消）	少しも・まったく〜ない	★★
▼ 状態・その他		
つきづきし	似つかわしい・ふさわしい・調和している	★★
あへなし	どうしようもない・はりあいがない・あっけない	★
いたはし	気の毒だ・大切に世話したい／（病で）つらい	★

💡 **「あした」と「つとめて」はセットで。**「あした＝朝」「ゆふべ＝夕方」が対。「つとめて」は早朝か、何か出来事のあった翌朝。

💡 **呼応の副詞は“相方”ごと暗記。**「え〜ず（できない）」「な〜そ（するな）」「つゆ・さらに〜なし（少しも〜ない）」。下にどんな語が来るかまでセットで覚える。

▶ **例文**：冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず。 → 冬は早朝（がよい）。雪が降っているのは言うまでもない。

▶ **例文**：え言はず。 → 言うことができない。（「え＋打消」で不可能）